

平成 25 年 5 月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は、この時期としては強い寒気の影響を受け、全国的に気温が平年を大幅に下回りました。北日本では、寒気や気圧の谷の影響により曇りや雨または雪の日が多く、沖縄・奄美でも、寒気や湿った気流の影響により曇りの日が多くなりました。東・西日本では、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。

中旬は、北海道では寒気や気圧の谷、および海からの冷気の流入により、曇りや雨の日が多くなりました。東北地方と東・西日本では、期間のはじめと終わりに低気圧の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりましたが、中頃は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。沖縄・奄美は前線や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、旬前半には、東北地方と東・西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多く、北海道では気圧の谷などの影響により曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美は梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多く、大雨となる日もありました。旬後半には、日本の南で高気圧の勢力が強まり、南から暖かく湿った気流が入りやすくなり北日本から西日本にかけて曇りや雨となりました。一方、沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れる日が続きました。西日本の旬平均気温は、統計を開始した 1961 年以降、5 月下旬としては最も高い値を更新しました。

月平均気温は、北日本で低く、東日本と西日本で高くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、東日本と西日本でかなり少なく、北日本で少なくなり、16 地点で 5 月の月降水量の少ない方からの一位を更新しました。一方、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、東日本と西日本でかなり多くなりました。多くの地点で平年の 120%以上となり、23 地点で 5 月の月間日照時間の多い方からの一位を更新しました。北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なくなり、雄武、紋別（いずれも北海道）では 5 月の月間日照時間の少ない方からの一位を更新しました。

【5月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率についてみると、明日予報は例年値^(注)より 4 ポイント高い 89%、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 85%でした。各地方の適中率についてみると、明日予報は例年値と同程度が高く、九州北部地方から近畿地方にかけて例年値より 8~10 ポイント高くなりました。明後日予報は、沖縄地方では例年値より 5 ポイント低くなりましたが、それ以外の地方では例年値より高く、九州南部地方から東海地方にかけて例年値より 4~11 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国的に概ね例年値より小さく、四国地方から関東甲信地方にかけて例年値より 0.4~0.6 小さくなりました。全国平均は例年値より 0.3 小さい 1.7 でした。最低気温の予報誤差は、全国的に概ね例年値と同程度で、全国平均は例年値より 0.1 小さい 1.4 でした。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北地方において梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7 月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期であり、大きな災害が発生することもあります。

梅雨末期の大雨は、長時間の雨により総降水量が多くなることに加え、短時間強雨により大きな災害をもたらすことがあります。このようなときには、最新の気象情報や警報・注意報などに留意し、防災対策に活用して下さい。